平成２９年度 第１回総合教育会議　会議録

１．開　　催　　日　　平成２９年９月２２日（金）
２．会　　場　　役場議員控室
３．開会及び閉会時刻　　開会１６時００分　閉会１７時３５分
４．出　席　委　員　　森田村長
上松教育長、加藤委員、水崎委員、山口委員、濱本委員
５．議場への出席者　　高桑教育次長（説明員）、山上指導参事（説明員）
渡辺補佐（記録者）

議事の概要

教育次長　それでは、ただいまより、平成２９年度第１回総合教育会議を開催します。開会にあたりまして、主催者であります村長からご挨拶申し上げます。

森田村長　お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。日ごろから中札内村の教育行政の円滑な推進にご協力いただいていることに感謝申し上げます。６月の改選で初めての総合教育会議ということで開催させていただきました。過日の議会で教育委員の方、お二人が改選期を迎えたということで、加藤委員については引き続き担っていただくことですが、水崎委員についてはこれまで献身的にご協力をいただきましたが、今回新生地区の川田教育委員を新たに新任するということで、水崎委員についてはこれまで協力いただきましてありがとうございました。
それでは議事を進めさせていただきたいと思います。
始めに、会議録署名委員は加藤委員を指名したいと思いますが、よろしいですか。

全 委 員　はい。

森田村長　協議第１号の教育行政の課題ということを議題にいたします。２点について意見交換をさせていただきたいと思います。まず村長公約について、大きく２点ございます。１点目が、経済的理由で夢をあきらめさせないということで、高校生の通学費用と下宿費用の助成ということで掲げています。これについては、中札内高校が廃止されて時限的な措置ということで激変緩和措置ということで行っていました。私も子ども二人を帯広の高校に通わせました。バス代について非常に高額になり、通学費が高額になるということで、帯広の高校への進学をあきらめて交通費の助成をしてもらえる高校に進学したというケースも耳に入っています。
これから全国的にも人口減少社会が進む中で小さな自治体が存続していく上で、定住促進あるいは子どもを生んでいただく、育てていただくことに前向きになっていただくという意味でも教育にかかる負担を軽減する。際限がないことで、どこかで線引きをしなくてはいけないのですが、中札内については他の自治体に比べるとはっきりマイナス点であります。そのへんの負担を少しでも軽減し、中札内で子どもを育てたいと思っていただけるようなアピールをしたいと思ってこの公約を掲げています。先日の議会一般質問でも、議員からもこれに関する質問があって、その議員からは是非進めてほしいとエールをいただきました。中札内村については、これ

までも子育て支援・充実ということで取り組んできた経緯もあります。過去に一度やめたものをもう一度復活させるということは色々と想いもあるとは思いますが、やはりその時々でやる必要があるということで今回の公約にいたしました。
ただ、所得制限なども必要かと思いますが、財政状況も考えながら、できるだけ早く、できれば来年度からでも導入できればと考えています。
次に、教育日本一の村プロジェクトの導入です。子どものヤル気を育むということで、英検や漢検・数検などの各種検定受験料を助成ということで、挙げさせていただいたのは何故かと言うと、去年から中札内中学校で受験できる検定というのが増えている状況にあります。上田前校長先生が子どもたちのヤル気を育むということで、中札内に来る前から継続して取り組んでいたということです。熱心な先生の異動などによって立ち消えないようにしたい。検定はずっと続けてもらうということで、この助成を入れさせてもらいました。次にボランティアの協力による学業支援です。難しい課題だということは認識していまして、学力の格差が全国的に広がっている現状があると聞いています。早いうちから苦手なところを支援できるというところでの放課後教室であったり、また部活動については社会的な問題になっていまして、先生の労働時間も大変なことになっているという報道がされているところです。こういったところをフォローできないか、民間の力を生かせられないかということです。
まず、通学費用・下宿費用についてご意見などをいただければと思います。

濱本委員　前回、７年間補助をした時は、どういう手続きでというかバスで通学している人に一律いくらという、どういう基準で補助していたのでしょうか。

加藤委員　あのときは全額補助だったかと思います。

濱本委員　うちは片道はバスでいきますが、帰りはバスで帰ってこれないので、迎えにいくことになります。送迎してる人には補助は当たらないことになるのでしょうか。

加藤委員　行きはバスになると思うが、兄弟でも部活をやってる子とそうでない子がいたりする。

教 育 長　浦幌も高校がなくなる時は、今道教委から５年間の区切りの中で全額補助している。下宿までは考えてないですね。

加藤委員　道からの補助が３年あって、それプラス中札内が何年か続けたと思うのですが。

教 育 長　私の記憶では補助は無いですね。市町村で村で５年間補助しますということですが、延長して７年間やったんですよね。

加藤委員　補助できればいいのでしょうけれども、財政の問題ですよね。どこまでできるのかという問題ですね。

森田村長　参考の情報ですが、更別が関心を持っていて、動き出す可能性があります。

水崎委員　決して悪い事業ではないと思いますが、下宿費用について自分の中ではピンとこない。下宿費用には食事も含まれているので、そのへんはどう考えれば良いのか。

森田村長　基本的には全額の補助は考えていなくて、定額の補助を考えていて、下宿したから何万円だとか、バスだから何万円だとかということではなくて、基本的には、通学補助の無い高校に進学する子については、所得制限がある中で、これは議論が必要ですが、基本的には定額で１万円なのか２万円

なのか。それは財政状況に合わせてできることを支援するということですね。金額の大小ではなくて、そういったことを応援するということ。アピール効果が大きいと思っている。中札内村として地元に高校がない自治体として、そういったところを応援するという姿勢を見せるということが、自治体間の競争が厳しい中では重要な選択ではないかと思っています。

加藤委員　戦略という言葉は、教育の場合は避けていただきたいと思います。

森田村長　私も現役の子育て世代ですので、苦しい思いもしてきました。やってくれたら助かるというところがあります。行政としては教育の充実イコールまちづくりそのもの。定住・移住促進策の一つの重要な選択、重要な柱でもあります。

教 育 長　私も父親に学校の先生になりたいから大学に行かせてほしいと頼み込んで、アルバイトをしながらも、なんとかした。子どもたちが感謝するとかありがたいとか、そういう気持ちはただ援助・助成することが必ずしも良いことではないと思います。苦しい中で家庭で努力して苦労して進学させるということに意義があると思います。経済的な理由で夢をあきらめさせないということは、そのとおりだと思います。教育長という立場で言うと、通学費用については一度切りました。議員の賛同を得て決まったことで、また同じことをやるとなるとその理由付けが厳しいと思います。自立というものの考え方や教育的作用という考え方、苦しいとこもあるかもしれないし余裕のあるところもあるかもしれない。そんなことを考えた時に、はたして復活していいのかなと考えるところがあります。また線引きも難しい。下宿もあるし高専に行っている子もいるし札幌の私立高校に行っている子もいる。そういう子も含めるとどうなのかなと思う。一回補助すると続けなければいけないと思う。今は健全財政かと思うので続けられると思いますが、10 年先を考えるともう少し慎重に検討していく必要があると考えます。

森田村長　教育長からお話がありました、高専だとか管外に行く子の家庭はおそらく経済的には問題は無いと思います。高専であれば学費はかなり抑えられていると思いますし、逆に親に負担をかけないために高専に行く子もいると思います。言われるように線引きなどについては、しっかりと議論するべきと思います。なぜこれにこだわるかと言いますと、私が当選した公約の中でも非常に関心が高い、私が当選した一つの柱であったということもご理解いただきたいと思います。その上でもきちんと議論をしたうえで整備していくのかということは必要と思います。まずは７年間継続された助成について、どんな形で行われたのか、そのときにどんな課題があったのかということは早急に検証しなければならないと思います。さきほど教育長からお話があった、議会において一度止めたものを復活させることについては、その時の情勢と今の情勢については非常に社会的な情勢が違うと思います。

濱本委員　所得制限を付けるということですが、下の方に手厚くするということは考えていますか。

山口委員　本当に支援が必要な人に補助すべきと思います。

森田村長　所得制限というところは難しいところがあります。ほんとに制限を設けられるかなというところもあります。ラインを引いたときに、ほんの少しの差でもらえる子ともらえない子が出てくることがあるので。

加藤委員　子どもたちに夢を与えることは良いことではあるけど、村の財政と家族の経済的な面での不公平感が出ないようにきちんとしっかりしたものを作らないとならないと思う。村長は来年度から始めたいと言われたけれど、様々な課題があるようなので、時間をかけて慎重に議論するべきと思います。

森田村長　さきほどは自分の想いとして来年度からと話をしましたけれど、こればっかりはしっかりと議論したうえで進めないと禍根を残すと思うので、ベストは来年度からと思ってますが、どうしても間に合わないということもあるかなとは思っています。

加藤委員　英検などの助成についても同じだと思うんです。教育委員会としても英語を身に付けさせようということでは進んできているのも確かだし、その中で補助することもありかなと思うんですが、やはりこれも不公平にならないよう配慮が必要と思います。また一つの検定に何度でも補助するということには反対です。

山口委員　私も何度も補助するのではなくて、チャレンジというのは回数は必要ないと思います。１年に一度。そして今、国でも英語教育を進めているので、英検に補助することが良いと思います。

森田村長　きちんとした努力をしないで受けることには十分な教育効果は得られないということに関しては私も同感です。グレードごとに回数の制限を設けることはありなのかなと思います。

教 育 長　検定には色々ある。スポーツ・エレクトーン・お茶やお花なんかも習っている子がいると思う。みんな検定なんですよね。全部補助するのかなと思いましたよ。私は英検に絞りたいと思う。これはうちの村で英語教育を進める観点から、その中の１コマとして英語力を上げるために英検をという考え方がある。また本人が努力すること。結果は別として、この過程が大事だと私は思います。

森田村長　基本的には、上田先生がやってた火を消したくないということが一番なんです。教育長の言うように筋が通るように英語検定で行くということもいいと思いますけど、今中学校で行われている検定を校長先生が異動になっても続けてほしいという、学校全体としてこれを進めていくんだという姿勢をもっていただきたいということなんです。

教 育 長　上田イズムにはまだ先があって、子どもたちだけでなく、ポロシリ大学のおじいちゃんおばあちゃんたちにも村民の方にもそれを広めようとしている。試験を受けてもらいましょうと。中学校だけでなくて、広い視点で先を見ていかないとだめかなと思っています。

森田村長　中札内の子どもたちは英語ができるんですね。民間の塾の方が一生懸命にされているからかなと思うのですが。

教 育 長　小学校は来年の学力テストには英語が入ってきますから楽しみです。どんなレベルまで行くのかなと。

森田村長　英語は勉強とはちょっと違うんですよね。英語の指導者の方は英語のトレーニングという言い方をよくするんです。勉強と考えたらダメみたいです。反射神経と同じだと言ってました。英語については場合によっては全村民を対象にしてもいいかもしれませんね。
ボランティアの導入、学業支援というテーマになっていますが、これについてはコミュニティ・スクールに期待しているところが非常に大きいので、学校の先生だけでは大変になってくると思いますので、できるだけ地域の

人たちに関わっていただいて、その人たちの生きがいにもなればと思っていますので、そこを期待したいと思います。先日山上さんの方から聞いたんですが、完全休校日を設けるということについては中札内もやるんですか。

教育次長　正式に協議はしてませんが、非公式には教育長もそういう考えですし、校長先生方にも校長会の中で来年度からでも環境が整えばやりたいと。保護者の理解も教職員の理解も得てということです。

森田村長　理解は比較的できやすいのかなと思いますね。

教 育 長　ただそこで何をするのかなんですよね。これから具体的になる中ですけども。先生方の負担を増やしたくないと思うんです。

森田村長　やはり休みをしっかり大切にして、メリハリ付けて仕事をしてほしい。先生方が疲れてしまったらなかなか良い教育はできませんから。

教 育 長　今は心の問題まで来てしまっているから気をつけてやらないといけない。

森田村長　休校日を設けることは非常に良いことだと思いますね。
公約の関係についてはここで一度締めたいと思います。

教育次長　学業支援につきましては、コミュニティ・スクールでやりたいと思っていることの一つですので、ボランティアの登録が進んでいけば、それが一番の鍵になりますので、あとは場所はどこでやるかということは細かい話ですので、環境が整い次第開始したいと考えています。

森田村長　ボランティアの募集はしてるんですか。どれくらいの登録ですか。

教育次長　登下校の見守りも含めると 50 人くらいの個人と 10 団体前後だと思います。

森田村長　次に教育委員会の重点課題に移りたいと思います。英語教育推進方針と北の大地のうたプロジェクトということで新たに考えていることがありますので説明をお願いします。

教育次長　まず資料２の英語教育推進方針案です。背景としては文科省が英語教育改革実施計画を策定しているということと学習指導要領が平成 32 年度から本格的に実施される。そこで小学校の中学年では初めて週 1・2 コマ程度の外国語活動が導入されるということと高学年では活動から授業に変って時数については 35 から 70 コマに増えるということです。北海道教育委員会としては、全面実施に向けて 2 年前倒しして 30 年度から先行実施をできるところからやってほしいという要請がされています。授業時数をどう確保するかが大きな課題であります。また 2020 年の入試から英検・ＴＯＥＦＬ等の民間の検定試験の活用が決まってます。今の中学校 3 年生が受験する年からになります。中札内村のこれからの取組みについては、ＡＬＴだけ申し上げますと 16 年度までは常勤で教育委員会の嘱託職員として置いてましたが、自律を決めて各種補助金などスリム化したことに合わせて 17 年度から非常勤になりました。具体的に中札内村として何をやっていくかという案です。大きく掲げるのは英語でコミュニケーションできる人を育てるということです。目標としては中学校卒業時に日常生活に必要な英語を理解して使えるようになるということ。これは素案ですので、これから正式に決定ということになりますけれども、もう一つ中学校卒業までに英検 3 級取得を 1 つの目標としたらどうかということです。そのために独自に何をやるかということを思いつくままに羅列していますが、教育研究所では英語活動・英語授業の研究と改革。それから教職員の研修の

充実です。それから教員についても助成制度を使って英検を受験してもらってはどうか。ＡＬＴの増強ということで非常勤ではなく常勤を置くべきではないかということ。一貫した教育を行う意味で保育園から英語活動を導入していく。学校へのイングリッシュコーナーの設置とかイングリッシュキャンプとか社会教育での大人の英会話教室の開催などです。大きな課題としては優秀なＡＬＴの確保です。それから授業時数の確保です。

森田村長　小学校高学年では授業化になるということですが、テストが行われるということになるのでしょうか。

教育次長　英語の教科書ができます。

山上参事　3・4年生については外国語活動という形になりますが、5・6年生は教科ですので、当然評価が入ってきます。

森田村長　重視してほしいのは、国語力をいかに伸ばすかというとこなんです。英語でコミュニケーションするうえで何が重要かというと日本語で考える論理力。要するに日本語できちんと話ができない人は英語でもきちんとコミュニケーションがとれないので、そこをどう伸ばすかというところが重要なので、英語に力を入れることは大切なんですが、一方で本や新聞を読まない若い人が多い。中札内の図書館でも20代30代で本を借りる割合が低いと聞いてます。日本語ができないと学力の底上げにならない。

教育次長　これについては、学校の教頭先生や教務主任の先生方と協議をして案をまとめて行きたいと考えています。

森田村長　次に北の大地のうたプロジェクトについてお願いします。

教育次長　北の大地のうたプロジェクト案です。もっともポピュラーな文化芸術であって、なくてはならないもの。一つの事業にとどまらず他のジャンルとのコラボレーションなど広がりの可能性があるということです。中札内村を更に魅力的にするために五感・聴覚で感じてもらえる魅力を創造するということです。北の大地をイメージした歌を公募するとしていますが、これにこだわっているわけではなくて、例えばふるさとの歌でも、家族への愛の歌、恋人への恋の歌など特徴をもって全国でやっていないことであれば、それも一つのアピールにもなりますし、魅力にもなるかなと思っておりますので、集まりやすいテーマにしてもいいかなと思ってます。活用としては、美しい村なかさつないのイメージソングとして観光のＰＲとかＢＧＭに使ったりできるのかなと、また道の駅なかさつないで毎年入選曲を一年間流し続ける、次の年はまた別の曲を流すということに使えるのかなと思います。

森田村長　新しく取り組む事業で、すぐに効果や村民への浸透というのは難しいかもしれないけど、いかに幅広い村民を巻き込んでいけるかなと。写真甲子園の東川町は10年以上は何度もやめようという話があったらしいんですけど、スポンサーのニコンだとか大手のスポンサーが付くことで一気に成長したらしいですよね。

教 育 長　また、教育委員会の中で協議してと考えています。

森田村長　次に、報告事項、平成２９年度全国学力・学習状況調査の結果について説明願います。

指導参事　（別紙資料４に基づき説明。）

本年４月に実施いたしました全国学力・学習状況調査の結果について報告させていただきます。この数値については各教科の平均正答率ということ

ですので、この数字だけをもって子どもたちの学力の全てを語るということにはならないんですが、一つの指標ということで報告をさせていただきたいと思います。国語A・B、算数A・Bとありますが、このA問題というのは主に知識に関する問題となってます。Bについては、活用に関する問題という区分けになっています。小学校については、国語、算数A・B共に全国・全道と比較すると若干下回る、或いは同等というレベルになっています。また中学校につきましては、全国・全道と比べても非常に大きく上回っている状況で全道でもトップクラスかなとおさえています。小学校の間で身に付けた基礎・基本を中学校の３年間で確かなものにした成果としてこういう結果になっているのかなと思っています。

森田村長　これからもこのような機会を得て皆さん方と忌憚の無い意見を交わしながら私としては行政の立場から意見を述べさせていただいて良いむらづくりに向けて頑張りたいと思いますので、今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。今日はありがとうございました。

平成２９年９月２２日

村　長　森田匡彦

教育長　上松文夫

署名委員　加藤淳司

記録者　渡辺浩